

戦評

大会名 第 99 回全国高等学校サッカー選手権福島県大会
日時 2020 年（令和 2 年）11 月 7 日（土）12:10 キックオフ
試合 学法石川 v s 聖光学院
会場 西部サッカー場
記録者 渡邊 幹夫
所属 _____

学法石川高校 3-4-2-1 のシステム。聖光学院高校 4-4-2 のシステム。学法石川は、開始から圧力をかけ開始早々にコーナーキックを得ると②番のキックから④番衣川がヘディングであわせ先制点を奪った。その後も⑨番倉島をターゲットに⑧番竹沢、⑰番平田の 2 シャドーが連動して関わり、サイドの⑩番渡辺、⑥番佐々木へ配給し、サイドを突破してクロスを上げるなど聖光学院のゴールに迫った。前半 19 分には、⑩番渡辺のクロスから⑨番倉島がヘディングシュートしゴールとなり追加点。守備時には、逆サイドのワイドが DF ラインに入り 3 枚から 4 枚へ変化させたり、攻撃時には⑨番倉島がボールを受けるために下がると、2 シャドーが前線に移動して 2 トップとなったりして状況に応じて立ち位置を変え、攻守にわたり可変させていた。一方、聖光学院は DF ラインでボールを奪うものの前線へロングボールが多くなってしまい攻略することが難しく学法石川が主導権を握り前半終了。後半も学法石川は攻撃の手を緩めず前から圧力をかけ優位に試合を進める。CB の交代により互いにシステムが 4-4-2 で、ミラーとなったところで一進一退の攻防となり聖光学院に押し込まれる場面もあったが、学法石川の⑤番大津を中心に粘り強く守備した。3 点目を奪うと再び主導権を握りそのまま試合終了となり、全国大会への切符を手に入れた。

聖光学院は、ロングボールで前線に配給したり、個で打開しようとしたりする場面が多かった。学法石川は、攻守にわたり互いの距離を意識しながら状況により立ち位置を変化させ、セットプレーも多彩で見事であった。全国大会へ初出場とはなるものの全国でのさらなる活躍を期待したい。